

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 外国語科)

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 富高 雅代

目次

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

- 1-1 外国語科改訂の趣旨
- 1-2 科目構成
- 1-3 外国語科の目標
- 1-4 教科目標及び科目目標の理解
- 1-5 言語活動の充実

2. 学習評価

- 2-1 観点別学習状況の評価の進め方
- 2-2 観点ごとのポイント
- 2-3 「英語コミュニケーション I」話すこと [発表]

3. 指導と評価の一体化

1. 新学習指導要領の改訂のポイント

- 1-1 外国語科改訂の趣旨
- 1-2 科目構成
- 1-3 外国語科の目標
- 1-4 教科目標及び科目目標の理解
- 1-5 言語活動の充実

1 - 1 外国語科改訂の趣旨

【課題】

- ・小中高の学校種間の接続が十分でないために学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができていないこと
- ・「話すこと」「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと
- ・「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと
- ・読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が適切に行われていないこと

【目標の改善・充実】

- ・三つの資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させ、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする

1 - 2 科目構成

英語コミュニケーションⅠ (3単位)

英語コミュニケーションⅡ (4単位)

英語コミュニケーションⅢ (4単位)

論理・表現Ⅰ (2単位)

論理・表現Ⅱ (2単位)

論理・表現Ⅲ (2単位)

五つの領域を総合的に扱うことを一層重視し、総合的な英語力の向上を図る

「話すこと」及び「書くこと」の発信力の強化を図る

1 - 3 外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと**の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする**コミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

生きて働く**知識及び技能**の
習得

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等の
育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性等の
涵養

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

1 - 4 教科目標及び科目目標の理解

- ・情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する
- ・「主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養う

1 - 5 言語活動の充実

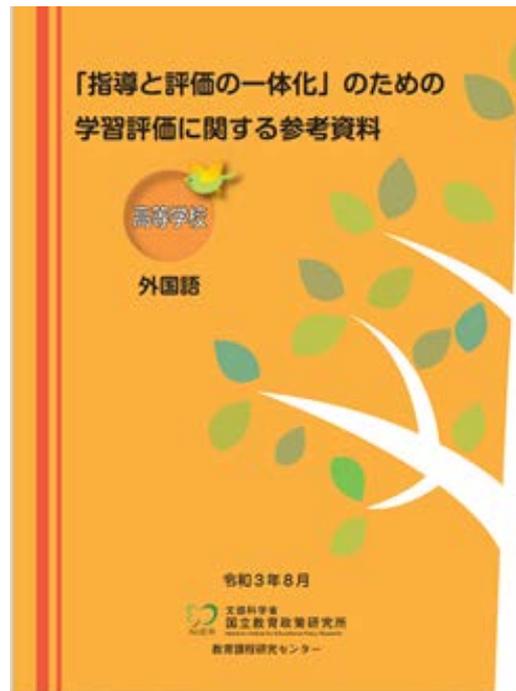
- ・複数領域を結び付けた統合的な言語活動の充実を図る
- ・授業を実際のコミュニケーションの場とする
- ・目的や場面，状況に応じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりできるようにする

2. 学習評価

2-1 観点別学習状況の評価の進め方

2-2 観点ごとのポイント

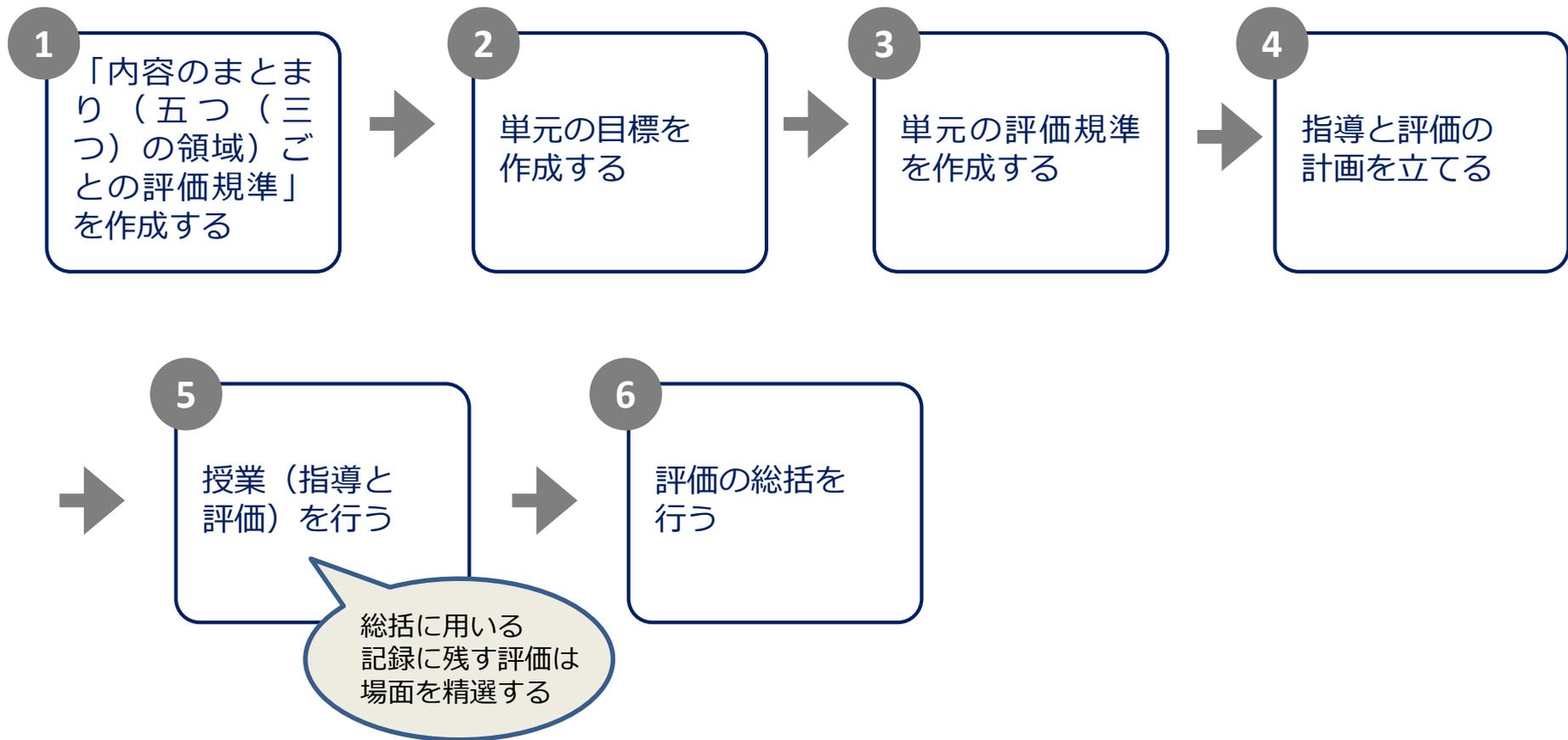
2-3 「英語コミュニケーション I」話すこと [発表] の評価・前後の指導



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料
(高等学校 外国語)



2 - 1 観点別学習状況の評価の進め方



「知識」

「英語の特徴やきまりに関する事項」を理解している状況を評価する。

「技能」

- ・「聞くこと」「読むこと」
話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている状況を評価する。
- ・「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」
情報や考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝え合ったりするために必要な技能を身に付けている状況を評価する。

「思考・判断・表現」

- ・「聞くこと」「読むこと」

必要な情報を読み取り，話し手や書き手の意図を把握したり，概要や要点などを目的に応じて捉えている状況を評価する。

- ・「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」

情報や考え，気持ちなどを，論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしている状況を評価する。

2 - 2 観点ごとのポイント「主体的に学習に取り組む態度」

「英語コミュニケーションⅠ」

「主体的に学習に取り組む態度」

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する。

- ・「聞くこと」、「読むこと」

話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報を聞き取ったり読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを目的に応じて捉えようとしていたりしている状況を評価する。

- ・「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」

情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている状況を評価する。

- ・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

2-3 「英語コミュニケーションⅠ」話すこと〔発表〕の評価

- ・ 「英語コミュニケーションⅠ」における「話すこと〔発表〕」
ア及びイの目標の確認
- ・ 複数単元を通じた「話すこと〔発表〕」における目標及び評価
規準の作成
- ・ 指導と評価の計画
- ・ 実際の授業
- ・ パフォーマンステストの実施・採点の基準
- ・ 評価の総括

2 - 3 パフォーマンステストの前と後の指導

○パフォーマンステストに至るまでの指導

- ・表現内容の適切さという**内容面**と、英語使用の適切さという**言語面**からの指導
- ・生徒が伝えたい内容を大切にしながら発表できるように、伝えたいことが適切に伝わるように使用する**語彙や表現、文を多様にしていくような継続的な指導**

○パフォーマンステスト実施後の指導

- ・それぞれの観点の評価結果を生徒一人一人に示し、できるようになったことを確認させた上で、自分自身で成果や課題を明らかにさせ、次に向けた目標をもたせる

3. 指導と評価の一体化

3 指導と評価の一体化

- ・ 目標に準拠した指導と評価
- ・ 生徒が実際に外国語を用い思考・判断・表現する機会の充実
- ・ 授業の改善と評価の改善

3 指導と評価の一体化

- ・ 指導計画・評価計画の作成
- ・ 学校教育目標の達成を目指す教科指導

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 外国語科)

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 富高 雅代